

2012年11月15日(木)

第4学年3組(男子20名、女子20名、計40名)

指導者:牧岡俊夫

1. 単元名:『くらしの中に伝わる願い』(全40時間)

小単元名:『(2)むかしのくらし、今のくらし』(全15時間)

2. 小単元の目標

- 古い道具を使っていたころの人々の暮らしに関心をもち、その様子について意欲的に調べ、地域の人々の生活の変化や昔の町の様子についての関心を深め、地域社会の発展を願っている。(関心・意欲・態度)
- 古い道具と使っていたころの人々の暮らしについて学習問題をつかみ、調べたことをもとに、今とは違う道具ではあっても、そこには暮らしの知恵や技が見られることなどを考え表現する。(思考・判断・表現)
- 古い道具の使い方や道具を使っていたころの人々の生活について、図書やインターネットで調べたり、家の人に聞いたり、博物館での体験やボランティアの人の話を聞いたりして調べている。(観察・資料活用の技能)
- 古くから残る道具とそれらを使っていたころの生活の様子についてわかる。(知識・理解)

3. 単元について

本単元は、本校児童が、社会科学習として初めてふれる「歴史学習」である。本校の学習指導計画では、3・4年生の歴史的な学習を4年2学期に位置づけている。まず始めに、1学期の上水道の学習と関連させ、「地域の発展につくした先人の具体的事例」のその①として、玉川兄弟と玉川上水を取り上げる。さらに、その②として小金井(武蔵野)の発展につくした川崎平右衛門と新田開発を取り上げ、広い範囲(東京)としての“地域”の発展と身近な地域(小金井)としての“地域”の発展について学習する。そして、本小単元では、武蔵野の農家とのかかわりももちながら、広く一般的な道具について調べ、その道具が使われていた頃の生活の様子を考えさせる。時代としては、玉川上水や新田開発が行われた江戸時代から、人々の生活が大きく変わった明治時代、児童の祖父母が子どもだった頃の大正時代・昭和時代の始め、児童の保護者が子どもだった頃の昭和時代、そして、児童が生まれ育った平成時代を扱う。

児童にとって、歴史学習は初めてである。しかし、テレビや学習マンガ等の影響から歴史について興味・関心が強い児童もあり、日常の会話でも「好きな戦国武将は…」や「姫路城は白くて松本城は黒い」などと話している児童もいる。また、そうした児童は、夏休みの自由研究でも、「城・古戦場めぐり」などを行ったりして、戦国時代・武将・城郭についての知識が豊富である。反面、歴史的な事象に興味がなく、知識を持たない児童や、歴史的な事象に“アレルギー”をもつ児童もいるのではないかと考え、簡単な実態調査(アンケート)を行った。その結果は以下の通りである。

【「むかしって？」アンケート集計結果】(9月3日実施)

Q1:あなたは、テレビの時代劇(じだいげき)を見ますか?

①よく見る:8名 ②見る:8名 ③ほとんど見ない:14名 ④見ない10名

Q2:あなたは、あなたのおじいちゃんやおばあちゃんから「むかし」の生活のことを聞いたことがありますか?

①何回もある:15名 ②2~3回ある:12名 ③ほとんどない:4名
④ない9名

Q3:あなたは、「むかし」のことを聞いたり、調べたり、知ったりすることが好きですか?

①とても好き:12名 ②好き:11名 ③あまり好きではない:12名
④:きらい:4名

Q4:あなたの家のまわりにある「むかし」のものは何ですか?

(返答例)神社・井戸・木でできている家・銅像・小金井公園・学校・すだれ・和室・駄菓子屋・よしず・駅の噴水・川・昭和記念公園・古本屋・そろばん・雑木林・トタン屋根・神田川・レトロな公園・柔道の屋敷・畳・甚平・高円寺・善福寺・善福寺川・昔話の本・寺・仏様・畑(直売所)・テレビ

Q5:あなたが「むかし」をかんじるものは何ですか?

(返答例)ポットトイレ・風鈴・畳・障子・祖母の家・歴史の本・洗濯機・畑・浴衣・着物・ぬいぐるみ・城・よしず・バックみたいな携帯電話・いろり・写真・古本屋・化石・団扇・扇子・昔遊び・そろばん・ストーブ・犬山城・くらぼね坂・柔道の屋敷・ベイゴマ・渋いお茶・花火・昆虫採集・蚊取り線香・鉄砲や刀・位牌・お骨・時代劇・お墓・城跡・上方二方国・姫路城・テレビ・冷蔵庫・銅像・火山岩

Q6:あなたが知っている「時代」は何ですか?例にならって書きましょう。

(例:江戸時代〔えどじだい〕)

(解答例)氷河時代・原始時代・石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代・南北朝時代・戦国時代・安土桃山時代・明治時代・大正時代・昭和時代・平成時代

Q7:あなたにとって「むかし」とはどんなイメージですか?

(解答例)不便・人の手でやる・機械を使わない・位で差別される・暴力が多い・お殿様がいる・武士・恐い社会・戦争・自分の命や財産などを弓矢や刀で守らなければならない・古い・節約・電気がない・争い・侍がいて恐い・古くて不便・戦いが多い・剣を持った人が多く暗殺・人の位・薬が少なく亡くなる人がいた・貧乏・道具・狩り・古い・つまらなそう・なにもなさそう・着物・何でも簡単に手に入らない・あまり遊べない・死者多量・少し苦労する・みんながゴリラみたいにウホウホ言って石とかをつんでいる感じ・平和ではない・誰もが剣を持っている・病が治らない・まずくてごはんが食べられない・木の棒や突など(自然のもの)を工夫して(生かして・利用して)ものを作った・仕事をたくさんしていた・近所の人と協力していた・自黒・自然にこだわっている・奥が深くて面白い・子どもも手伝いをしている・武器・壺・和服・源平合戦・お屋敷・何個の家族が一つの家に住んでいる・日の出で朝起きて日の入りで寝る・マンモス・過去

上記の集計結果を見ると、4年3組の児童は、

- ①時代劇を見たり昔の話を聞いたりする昔とのかかわり度合いに関して個人差が大きく、昔のことを調べたりすることに対しても意欲に差が見られる。
- ②身の回りにある物や祖父母の家の物・寺社や公園、化石から少し前の携帯電話まで、様々な物の中に「むかし」を見出し、その年代の幅も大きく捉えている。
- ③「むかし」に対して、ほとんどの児童がマイナス(戦争・死・不便)のイメージを持っている。

ことが分かった。そこで、本小単元の学習を通して、小単元の目標にあるように「過去の生活における人々の知恵や工夫」に気付き、「むかし」=「不便」という一方的な見方・考え方を更新させたい。

小単元の学習にあたっては、「①心情的にも時間的にも『身近』ではない昔の人々の生活についての初めての学習」「②歴史的な事象に対しての知識や追究意欲の個人差が大きいこと」の2点について考慮する必要がある。そこで、間接的な資料(文章や写真など)での“座学”ではなく、具体的な「道具」を通して、個人で調べたり、博物館で体験を通して調べたり、さらに、学級でも体験活動を行い、実感を伴った追究となるように学習活動を工夫する。その結果、道具そのものの変遷を学習することで終わることなく、「過去の生活における人々の知恵や工夫に気付いたり、地域の人々の生活の変化や人々の願いを考えたりする」学習を目指したい。

4. 研究テーマとの関連

(1) 研究全体テーマとの関連

研究全体テーマ

理解を深め、物語れる力を育む
— 実感のある学びを生み出す学習環境 —

① 理解を深める力

本小単元では、児童は、初めにもっている「むかし」に対するイメージ（不便）を昔の道具を具体的に調べるたり実際にそれらを使ってみたりすることにより、新たなイメージ（昔の人たちは、不便なりに、少しでも効率よく使用したり、快適に生活したりできるように、小さな工夫や知恵を働かせていた）をもつことが理解を深めた姿と考える。

② 物語れる力

調べた結果や体験した経験から昔の道具や生活について、自分事としてとらえ、意味づけをして、学級集団の中へ表現することと考える。

③ 実感のある学びを生み出す学習環境

実感のある学びとは、「言葉だけでなく、実の場と結びつけて理解を深め、オリジナルの意見を物語っている過程、または物語った結果」である（研究部定義）。本小単元では、まず、学習前の「むかし」に対する「不便」というイメージから始まり、各自で自宅等にある昔の道具や学校にある「石臼」「長火鉢」を調べた後に「物語った」「昔の道具の特ちょう」、そして、江戸東京たてもの園での「石臼」や「火鉢」体験とボランティアさんとの交流後に「物語った」の「昔の道具の特ちょう」、さらに、現在の全自動洗濯機との比較における洗濯板での洗濯体験後に「物語った」「昔の道具の特ちょう」と様々な学習活動を経て物語っている過程や物語った結果と捉えている。

(2) 社会科部研究テーマとの関連

社会科部研究テーマ

身に付けた見方や考え方を生かして、社会的事象の意味を考える子の育成

① 「自分事」になる教材の開発・吟味

◎ 児童が考えたい、考えざるを得ない学習環境デザイン

◎ 実の場と結びつく考えを生む学習環境デザイン

② 身に付けた見方や考え方を生かす学習過程の工夫

◎ 児童が考えたい、考えざるを得ない学習環境デザイン

○ 理解を深められるような工夫

③ 見方や考え方の深まる「問い」の吟味

○ 理解を深められるような工夫

○ 表現方法

○ 自ら「語ろうとする」「語りたくなる」、
教材の開発・学習問題の工夫・学習活動の工夫（活動カリキュラム）
〈学習内容面の手立て〉

【教材の工夫・学習活動の工夫】まず、自分の自宅や祖父母の家など、自分の身近な場所で昔の道具を探し、その道具について使い方やいつ頃使っていたのか、苦労や工夫などを調べさせる。その結果、「自分とつながりの深い人が使っていた道具」について知りたい、考えたいという意欲をもたせる。そして、江戸東京たてもの園での体験活動に繋がるように、学校にある石臼と長火鉢を教材化し、その使い方、使われていた時期、使われていた頃の人々の生活などについて調べ「道具年表」を作成させる。さらに、自分達で調べてきた道具の中から洗濯板を取り上げ、「本当に昔の道具は不便なのか？」という学習問題を

設定して、全自動洗濯機による自動（機械化・電化）洗濯と洗濯板による手動洗濯とを体験的に比べさせ、昔の道具の中にある先人の工夫や知恵に迫らせた。これらの学習活動を通して、一つの学習活動で身に付けた見方・考え方を生かし次の活動を展開していくことで、新たな見方・考え方を獲得させる。（見方・考え方の更新）

【学習問題の工夫】本小単元の一般的な学習問題は、「昔の道具を使っていた頃の生活はどんな様子だったのだろうか」である。これでは、意欲的に社会的事象の意味や本質を考えさせる間にはならない。そこで、「昔の道具に秘められた工夫や知恵を探ろう」という学習問題を考えたが、アンケート調査から「むかし」に対する「不便」というイメージをもつ児童が多かったことからあえて、単元の途中から、「本当に昔の道具は不便なのか？」という学習問題を設定した。この問いをもとに体験活動を行い、社会的事象の意味や本質に迫らせた。

④ 見方や考え方が深まる学習活動の工夫

(7) 捉えさせ方を工夫する

(4) 根拠を明確にした話し合い活動

○ 自ら「語ろうとする」「語りたくなる」、話し合い活動の工夫
〈学習方法面の手立て〉

* 相手の顔を見て話すための座席方向

教室の座席を基本的（朝の会～帰りの会）にコの字型とし、学習活動に合わせて、縦に8列×5名、縦に6列×6～7人、4人1班のグループなどの座席の型を用いる。

* 「話す」経験を増やす朝のスピーチ&質疑

朝の会での1日2名の日直のスピーチ。テーマは時節の話題や自分や家族のことなど。スピーチに対して3名までの質疑有り。

* 相互指名（挙手指名・起立指名）

話し合い活動での指名方法の工夫。5～6人をいっぺんに指名する。児童相互の指名〔発言者が挙手している（発言しようとしている）児童の中から次の発言者を指名する〕、指名無し発言など。

* 前者の意見とのかかわりを明確にした発言方法

挙手時に「つけたし」「反対」「質問」など前発言者の意見に自分の意見がどう関係しているのかを言う。または、発言時に、自分の考えを前発言者の考えとどのような関係があるのかを述べてから発言する方法。

* ネームプレート活用、つながり・対立の分かる板書の工夫

どの意見が誰が発言したのかが分かるように、板書の邪魔にならない大きさのネームプレートを用意してはる。板書は、線や矢印、囲み線、色チョークなどを使って、児童の意見を同類のものでまとめたり、対立や疑問を明確にしたり、思考の過程が明確になったりするように工夫する。

* 「思考の方法」と「思考のことば」の例示（中学年段階）

○ 比較する：「○○と△△とでは～が違うから、○○（△△）の方がよい」

○ 仮定する：「もし○○だったら、△△になる」

○ 推量する：「○○だから△△なのではないだろうか」

○ 類推する：「○○のときは～だったから、△△でも～なのではないか」

○ 関連付ける：「○○のようになっているから、△△になっている」

○ 帰納的に考える：「○○も△△も～だから、□□がよく分かる」

○ 観点を変える：「○○からみれば～だけれど、△△から見ると…だ」

（参考：新潟大学附属新潟小学校）

* 問い返し

「どうして」「それから」「だから」「つまり」等の問い返しを行うことで、児童の中にある考えを引き出す。

5. 学習指導計画（全15時間扱い）

- 第1次 身の回りにある昔の道具を調べて、道具年表にまとめよう。・・・・・・4時間
 第2次 昔の道具を使った体験をして、道具の工夫や知恵を探ろう。・・・・・・7時間
 （本時7/7）
 第3次 昔の道具に秘められた、工夫や努力を考え、昔の道具紹介VTRを作ろう。
 ・・・・・・4時間

6. 本時の学習指導

(1)本時の目標

昔の道具の体験活動の結果や昔の道具の観察から、昔の道具に込められた先人の知恵や工夫を考えることができる。

(2)本時の学習指導展開

過程	予想される児童の活動	○:研究テーマとの関連 ●:指導上の留意点 ☆:評価
つかむ	1. 本時の学習問題を確認する。	
	<p>本当に、昔の道具は不便だったのか？</p>	
追究する	<p>2. 昔の道具調べや昔の道具体験を通して気付いたことや考えたことを根拠に、自分の意見を述べたり、クラスメイトの意見を聞いたりして、学習問題について話し合う。</p> <p>「やっぱり不便」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかる ・手間がかかる ・重労働（力がいる・冷たい） ・効率が悪い ・めんどくさい <p>「今の道具と比べると不便だが、小さな工夫や作った人や使う人の知恵が込められている」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかるが今の道具と同じぐらい（今の道具よりも）ちゃんと使える。 ・木や石など身の回りにあるもの（自然のもの）を生かして工夫して作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前活動（洗濯板洗濯体験）の結果や自分の実感を根拠に、学習問題についての自分の考えを表現させる。 ○相互指名 ○板書整理
まとめる	<p>3. 2種類の洗濯板を観察して、“洗濯板の進化”を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・溝が曲がっている→洗濯液が溜まる ・両面溝が彫ってある→溝がすり減っても1枚の板で2度使える ・上下に木目の違う板をはめ込んでいる →板が割れないようにしている ・手を添える所が彫ってある →持ちやすい・滑らないように <p>4. 学習問題に対する自分の結論を表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○前活動（洗濯板洗濯体験）で得た見方考え方を揺さぶり、新たな見方考え方を主体的に構築させる。 ○問い返し <p>☆ノート記述</p>

7ヶ月 17日の時代劇 2巻の登場人物 3巻の登場人物 4巻の登場人物 5巻の登場人物 6巻の登場人物 7巻の登場人物	観察対象児A(熊澤壮真)	観察対象児B(大原裕貴)	観察対象児C(利根川優希)	観察対象児D(鶴川慶子)
道真調べ (個人) 調べカード ド記述	①見る 2ほとんどの家にあ き 4無記入 5鉄砲や刀 6 縄文、弥生、飛鳥、平安、鎌倉、 室町、戦国、安土桃山、江戸、 昭和、大正、明治、平成時代 7武器で戦う時代	1ほとんど見ない 2ない 3きら い 4畑 (家の向かいの直売所) 5畑・林 6平成時代、大正時代、 明治時代 7古い、こわい←戦	1見ない 22~3回ある 3 すき 4小金井公園、学校 5 家の洗濯機 6安土桃山時代、 鎌倉時代、平成時代、昭和時代、 明治時代、恐竜時代、弥生時代、 縄文時代 7古い、節約	1見ない 2ない 3すき 4も う何年もおんぼろの空き家 5石 川県白山市に住んでいる曾お祖母 ちゃんの家 6明治、平成、昭和、 江戸、戦国 7一言で言うところ い(昭和の初めまで)自分の命や 財産などを弓矢や刀で守らなけれ ばならなかったから。
「普の道 真の持ち よう①」 発言	「火鉢 (自分でやる)」の意見 に付け足して、「力がいたり、 手間がかかったりする」と発言 する。	「手動 (自分でやる)」の意見に付 け足して、「危険性がある、危ない」 「今のものより使いにくい」と発言 する。	「今の物よりも大きさが大きい」 と発言する。	「手動 (自分でやる)」の意見に 付け足して、「使えるまでに時間 がかかる」と発言する。
第4時 石臼火鉢	※この時間の発言内容(普の道具は不便)から、この4名を観察対象児に選んだ。			
「普の道 真の持ち よう②」 ノート記述 第8時	「普の道真の持ちよう②」 ノート記述 第8時	前までは危ない物と置いていたけれ ども、体験してみても危ないと言 うよりも、手間や力の方がいるよ うな気がした。	(未記述)	普の人に比べては便利=今の人に とっては不便
「石臼・ 火鉢」以 外で観察 カードに 記録した 道具	「石臼」何に使うか分からない箱 が展示してあった。箱に葉のよ うなマークがついていて、看板 には「大きな大事な物を入れた いたらしい。」と書いてあった。 おそろしく大切な物を入れていた 箱ではなにかと思えました。	「かつおぶし」大和屋の本店という かんぶつ屋で僕たちが食べる鰹節の もつを見つけた。どうやら大根おろ しみたいな物で割って食べられる物 節にするらしい。いまはこういう物 をあまり見ない。(全然見ない)珍 しい。ぼくは一回割ってみたかった。	「普のレジスタター」今のと似て いるがボタンが柱みたいなのが ついている。でかい。	「和傘」和紙で作られている傘。 今はプラスチックのものが多い。 作り方を見たら、とても難しそう だった。(大正時代)
「普の道 真の持ち よう①」 ノート記述 第8時	力がいる、危ない、重い、壊れ やすい→人によっては不便	真面目で控え目な性格。積極的には 拳手・発言をしないが、ここぞという時 には手を挙げる。道具調べでは、家に あった昔のコチを調べ、丁寧にま めた。また、コチや火鉢といった熱くな る物(やけどの危険性)を調べた関係 で、普の道具は「危ない」と考えたが、 「石臼」の体験から、「手間や力がい る」と変えている。また、カードには「普 の人の知恵」と記述しており、授業で は、これまでの学習活動をふり返 つて、「知恵・工夫」について発言が見 られるか。	どんな発問に対しても積極的に拳 手・発言するが、言葉が足りな かったり乱暴だったりする。最初の道 真調べで「アナログテレビ」を調べ て以来、物の大きさにこだわってき ている。調べ活動により「アナログ テレビ、石臼、火鉢のよう」に大き くて重い→不便」とイメージをも つ。そのイメージを洗濯板での洗濯体 験によりどう変化させるか。考えたこ とをふり返り、「工夫・知恵」を語 れるか。	観察・実験結果や教科書の記述等 を根拠に自分の考えを積極的に発 表することはできる。最初の道具リ ラ辺では、祖母の家に帰って普の 道具を探し、いろいろいる道具の中 から五玉のそろばんを選んで調べた。 授業では、クオースメイトの意見を聞 いて参考にしながら自分の意見を 考え発表するだろう。「普の人に比 べては便利」という考えを周りに 伝わるように語れるか。

1. 本時の目標

昔の道具の体験活動の結果や昔の道具の観察から、昔の道具に込められた先人の知恵や工夫を考えることができる。

2. 本時の学習指導展開

予想される児童の活動	○：研究テーマとの関連 ・：指導上の留意点 ☆：評価
1. 本時の学習問題を確認する。	
<p>本当に、昔の道具は不便だったのか？</p>	
<p>2. 昔の道具調べや昔の道具体験を通して気付いたことや考えたことを根拠に、自分の意見を述べたり、クラスメイトの意見を聞いたりして、学習問題について話し合う。</p> <p>「やっぱり不便」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかる ・手間がかかる ・重労働（力がいる・冷たい） ・効率が悪い ・めんどくさい <p>「今の道具と比べると不便だが、小さな工夫や作った人や使う人の知恵が込められている」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかるが今の道具と同じぐらい（今の道具よりも）ちゃんと使える。 ・木や石など身の回りにあるもの（自然のもの）を生かして工夫して作ってある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前活動（洗濯板洗濯体験）の結果や自分の実感を根拠に、学習問題についての自分の考えを表現させる。 ○相互指名により、なるべく多くの児童に挙手・発言させ、いろいろな見方・考え方があつたことを表現させる。 ○対立や関係が分かるように、出された意見を板書に整理する。 ・前時の洗濯板洗濯体験からだけでなく、各自で調べた道具や社会科見学で体験した道具のことなどもふり返りながら話し合わせる。
<p>3. 2種類の洗濯板を観察して、“洗濯板の進化”を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・溝が曲がっている →洗濯液が溜まる ・両面溝が彫ってある →溝がすり減っても1枚の板で2度使える ・上下に木目の違う板をはめ込んでいる →板が割れないようにしている ・手を添える所が彫ってある →持ちやすい・滑らないように 	<ul style="list-style-type: none"> ○前活動（洗濯板洗濯体験）で得た見方考え方を揺さぶり、新たな見方・考え方を主体的に構築させる。 ○「だから」や「つまり」等の問い返しを行い、事実だけでなく、その意味を考えさせる。
<p>4. 学習問題に対する自分の結論を表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯板での洗濯は、大変で手間がかかるけど、汚れがよく落ちた。それは、汚れている所を見ながらそこを中心に洗ったからだ。昔の道具は自分の手を使ってやるので、力がいたり大変だけど、自分なりに工夫してできる。 ・洗濯板での洗濯は、水が冷たかったり手が痛くなったりして大変だけど、汚れはよく落ちた。昔の人も少しずつ工夫して、道具をよくしてきたからだ。昔の道具にも昔の人の知恵が詰まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの活動や本時で調べたこと・考えたことをもとに、自分の考えをまとめてノートに記述させ、「語る」ことができるように準備させる。 ○「どうしてそう考えたのか」や「だからどう思うのか」等の問い返しを行い、事実や結果だけでなく、根拠や考察も含めて語れるように助言する。 <p>☆ノート記述</p>

第1次



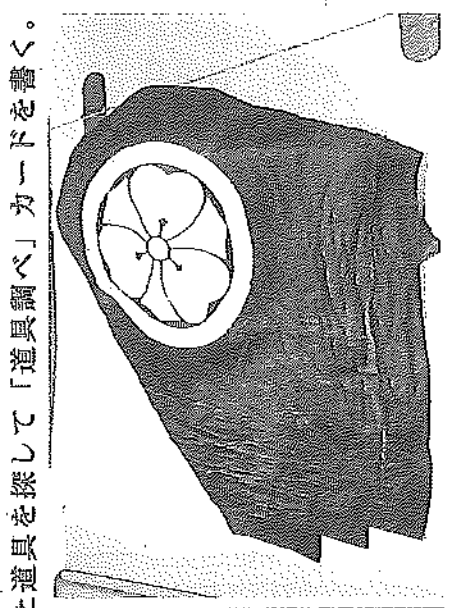
△湯たんぼ (本校蔵)

① ②



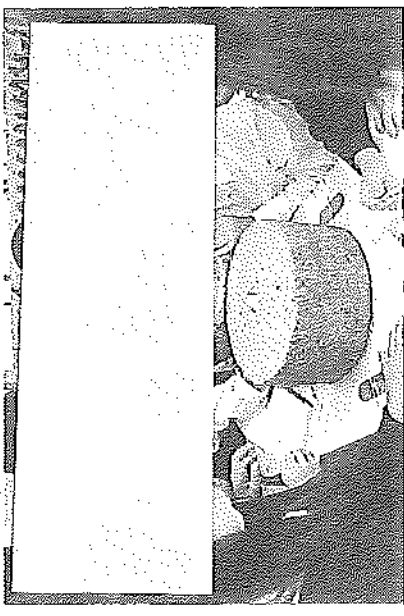
△こて ()

△風呂敷 ()



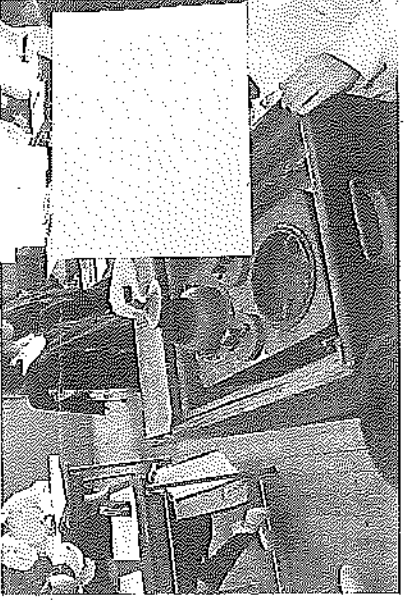
昔の道具の例として、学校にある「湯たんぼ」を観察し、家にある昔から残されてきた道具を探して「道具調べ」カードを書く。

第1次

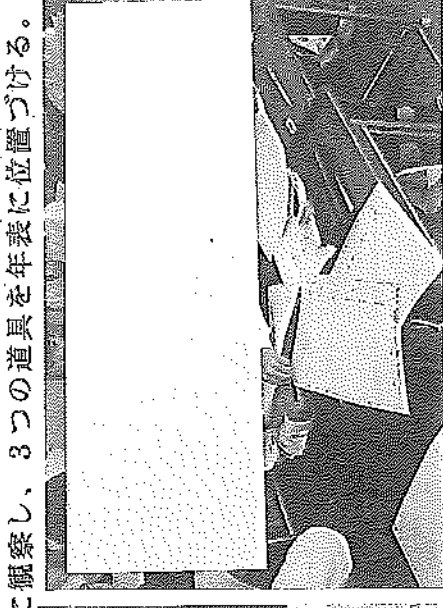


△石臼を調べる

③ ④



△長火鉢を調べる



△道具年表 (個人) に位置づける

第2次



△車輪回しを初めて体験

⑤ ⑥

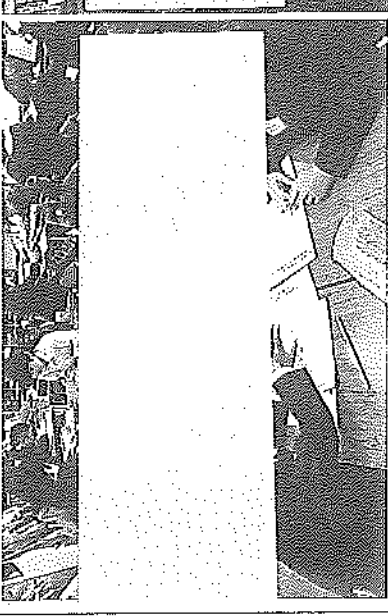


△お米を石臼で粉にします

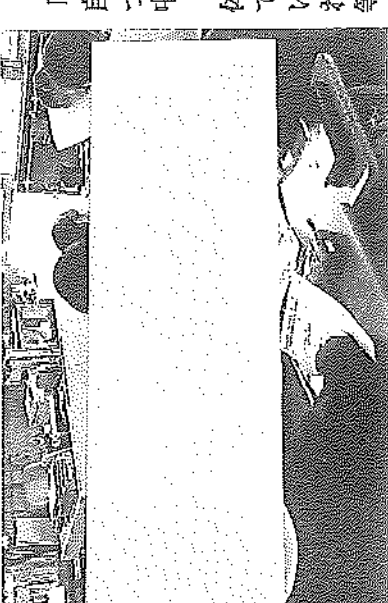


△火箸を使って十能から炭を火鉢に移します

第2次

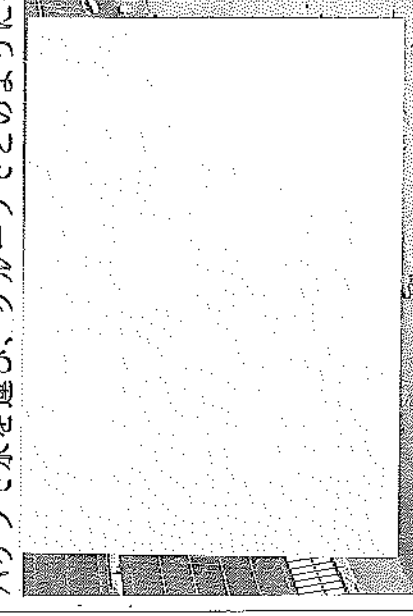


⑦



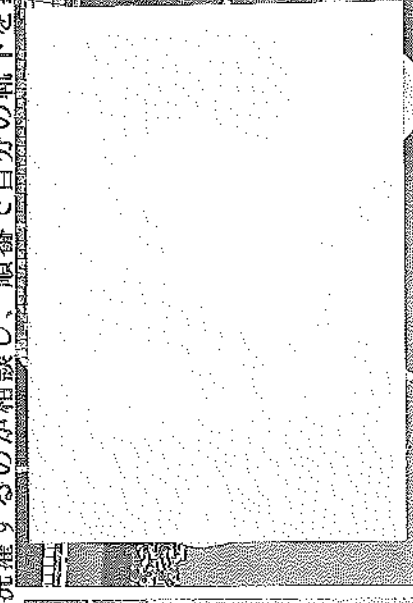
見学・体験後、「石臼」を体験した児童と「火鉢」を体験した児童とでグループになり、自分が書いたカードをもとに体験談を語り合っ中て情報交換をする。石臼体験者からは、「途中で止まってしまおうとかなかなか動かさない。」「何か入れて回した方が回しやすい」、火鉢体験者からは、「火ばさみは重くて使い辛い。でも燃えないように鉄でできているから重い。」「炭は次すぐ使えるように器消し壺に入れて真空にして消す。水をかけたりしない。」等の報告があった。

第3次

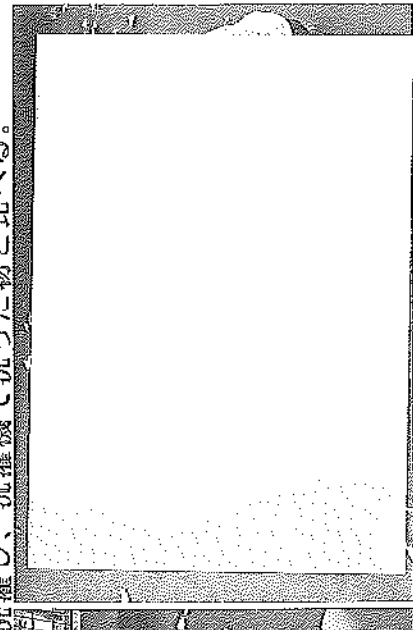


△遠い所から水を運ぶ大変さ

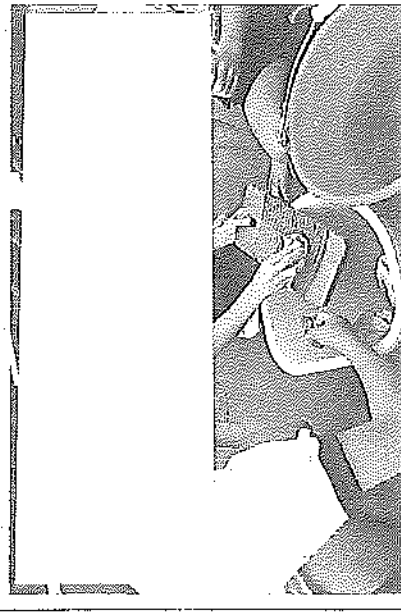
⑧ ⑨ ⑩



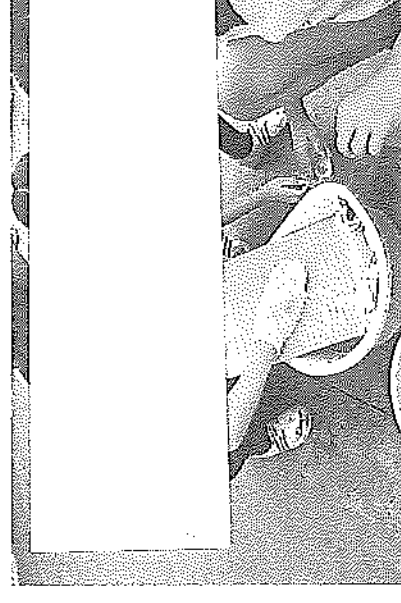
△どうすればきれいに落とせるかな?



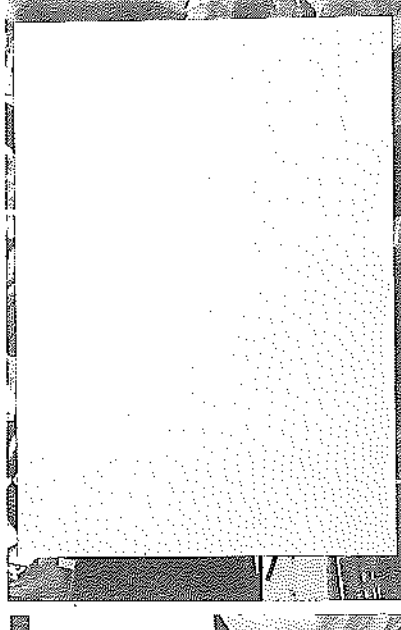
△まずば、水につけて・・・



△水が冷たいよう



△手に履かせると洗いやすいよ!



△一目瞭然、洗濯板の方が・・・